

2 人文社会学部 国際キャリア学科

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

国際キャリア学科は、①実践的な外国語能力とコミュニケーション能力を自ら高めて、生涯にわたって学び続ける人材、②多様な考え方や異文化を受容する思いやりを持ち、国際問題にも関心を持つ人材、③社会に貢献するために積極的に行動できる人材の形成を目指します。また、世界で活躍するため問題解決や改革に取り組み、実現することが出来る人材の育成を目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の5点とします。

1) 外国語能力

外国語の4技能である「読む・聞く・話す・書く」を修得し、実践的な外国語能力を身につけている。

2) コミュニケーション能力

高い外国語能力に基づき、グローバル化した社会に即応したコミュニケーション能力を修得している。

3) 国際的認識能力

環境・民族紛争・宗教・経済・金融等の国際的な問題を認識し、国際社会における日本の役割を実践的に把握する能力を獲得している。

4) 異文化理解力

言語の背景にある歴史・文化・政治・経済等に関心を持ち、異文化理解への関心と意欲を身につけている。

5) 課題解決能力

自ら課題を設定し他者と協同しながら問題解決にあたり、グローバル化社会で有為の人材となるために必要な知識とスキルを獲得している。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

国際キャリア学科は、グローバル化した社会、より複雑になりつつある国際問題に対処できる能力・知識・スキルを体系的、実践的に学ぶことを目的として教育課程を編成します。1、2年次では語学力の向上に重点を置き、さらに3年次からは各自の進路・適性に応じて、①英語・英語教育コース、②国際ビジネスコース、③国際理解・協力コースの3領域からそれぞれ指定の科目を選択履修します。3、4年次では「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(ゼミ)」を受講し、希望者は「卒業研究」に取り組みます。

- 1) 1年次においては、「英文法Ⅰ・Ⅱ」「Extensive Reading 初級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「キャリア英語入門Ⅰ・Ⅱ」を必修とします。加えて、「マクロ経済学」「英語圏文化概説」の授業が選択できます。
- 2) 2年次においては、中級レベル以上の英語力や国際的な感覚を身に付けるために、「Extensive Reading 中級Ⅰ・Ⅱ」「ベーシックコミュニケーションⅤ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」を必修とします。また、それら学科共通領域に加え、3年次からのゼミ(専門演習)での教育に向けて、①英語・英語教育コースでは、「Reading(Culture)」「Reading(Society)」「Reading(Literature)」「英語学概説」「英語学」、②国際ビジネスコースでは、「国際ビジネス論」「国際経済学」「グローバルファイナンス」、③国際理解・協力コースでは、「国際理解教育」「異文化共生論」の3つの領域を土台として科目を選択します。
- 3) 3年次からは、各自の所属する専門演習(ゼミ)を中心に、各自、コース領域や進路・適性に応じて科目を選択し、履修します。①英語・英語教育コースでは、「Reading(Language)」「Extensive Reading 上級Ⅰ・Ⅱ」「アドバンストコミュニケーションⅠ～Ⅷ」等、②国際ビジネスコースでは、「貿易実務Ⅰ・Ⅱ」「金融システム論」「貿易理論」等、③国際理解・協力コースでは、「国際政治学」「国際問題論」「英国史」「社会情報論」等の授業が選択できます。また、学科共通領域として、「英米文化論」「異文化理解」「国際コミュニケーション論」等も履修することができます。

(2) 教育方法

外国語の4技能である「読む、書く、聞く、話す」を修得し、実践的な外国語能力を身につけるために、以下の様な形で教育を行います。

- 1) 学生個々人が英語の能力を効果的に高めることができるようにするため、「英文法Ⅰ」、「英文法Ⅱ」、「エクステンシブ・リーディング」、「ベーシックコミュニケーション」などの必修科目では、英語能力別にクラスの編成を行います。
- 2) 聞く力や話す力を高めるため、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とし、「ベーシックコミュニケーション」はネイティブ教員が担当します。
- 3) ビジネス場面の実践的英語に習熟させるための方法として、「キャリア英語入門」「キャリア英語」ではTOEIC等の資格取得のための学修を取り入れます。
- 4) 講義を起点とする科目においては、ICTも活用しながら、学生自身が課題を発見し、解決法を探究するアクティブ・ラーニングを実施します。
- 5) 3、4年次の専門科目のいずれにおいても、実践的な能力を発展させるため、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を中心として実施します。
- 6) ランゲージプラザにおいて、学生の個別ニーズに応じ、ネイティブスピーカーによる英語と中国語の実践的会話を行うとともに、日本人教員による個別指導を行い、授業の補完とします。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) 学修ポートフォリオ、学生動態調査アンケート、学位取得状況、PROGテスト、外部試験、授業アンケートなどを参考に総合的に評価する。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

国際キャリア学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 豊かな人間性を身につけ、広い視野を持って国際社会で前向きに生きていこうとする強い意欲を持つことができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学科の専門分野を学ぶために、英語に関して高等学校等で修得すべき基礎学力を有し、思考を深めて他者に表現できること。

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 言語の背後にある文化・歴史・政治・経済等の多様な要素に興味もつことができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能〕

4) 異文化に興味を持ち、海外体験の実現を通じて、自己研鑽に努めることができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、主体性・多様性・協調性〕

5) 現代の国際関係に関心を持ち、そこに存在する課題を発見し、その解決法を探ることができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、思考力・判断力〕

6) 英語教員を目指す人は、国際的視野を持った英語教員になる意志を有し、そのための努力ができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度、知識・技能〕

入学者選抜方法における評価項目（国際キャリア学科）

入試区分	入学者選抜方法	関心 意欲 態度	知識 技能	思考力 判断力	表現力	主体性 多様性 協働性
AO入試 オープンキャンパス 参加型	「小レポート」 「個人面談」 「英語によるコミュニケーション能力」	○	○		○	○
AO入試 自由応募型	「個人面談」 「志望理由書」 「調査書」 「英語によるコミュニケーション能力」	○	○		○	○
同窓入試 (Ⅰ期・Ⅱ期)	「個人面談」 「志望理由書」 「調査書」	○			○	○
特別活動推薦入試	「グループディス カッション」 「エントリーシート」 「調査書」	○	○		○	○
自校・指定校制 推薦入試	「集団面談」 「調査書」	○			○	○
公募制推薦入試 前期日程	「教科」 「調査書」	○	○			○
公募制推薦入試 後期日程	「教科」 「調査書」	○	○			○
一般入試前期日程	「教科」	○	○			
一般入試中期日程	「教科」	○	○			
一般入試後期日程	「教科」 「記述式問題」 「小論文」	○	○	○	○	
一般入試 センター試験 利用入試 (Ⅰ期・Ⅱ期)	「教科」	○	○			
社会人入試	「小論文」 「個人面談」 「書類審査」	○		○	○	○
帰国生徒入試	「教科」 「個人面談」 「書類審査」	○	○		○	○
外国人留学生入試	「教科」 「個人面談」 「書類審査」	○	○		○	○

- ・「志望理由書」：関心・意欲・態度、協働性
- ・「調査書」：関心・意欲・態度、協働性
- ・「小論文」：思考力・判断力、表現力
- ・「記述式問題」：思考力・判断力
- ・「集団面談」：主体性・多様性、表現力
- ・「英語によるコミュニケーション能力」：技能
- ・「グループディスカッション」：主体性・多様性・協働性
- ・「エントリーシート」：関心・意欲・態度、協働性、知識・技能
- ・「書類審査」：関心・意欲・態度、協働性
- ・「小レポート」：表現力
- ・「個人面談」：主体性・多様性、表現力
- ・「教科」：知識
- ・「基礎教育科目の履修および授戒への参加」：関心・意欲・態度